

第10回国土交通省東日本大震災復興対策本部 議事概要

- 1 日時 平成26年3月10日 18:05~18:43
- 2 場所 合同庁舎3号館4階幹部会議室
- 3 出席者：太田大臣（本部長）、副大臣、大臣政務官、
事務次官、技監、国土交通審議官、官房長、関係局長 他
- 4 議題 大臣挨拶、東日本大震災へのこの1年の対応と今後の取組、現場からの報告

【主な発言内容】

大臣

- 被災地の復興の加速を政権の最優先課題の一つと位置付け、全力で取り組んでいるところ。
- 基幹インフラの復旧は順調。住宅再建・まちづくりは、昨年3月に「住まいの復興工程表」を策定し、これに沿って事業を着実に推進。この結果、この1年で災害公営住宅の着手率が35%から67%、防災集団移転は12%から88%になるなど復興は前進。
- 復興推進会議における私からの発言について申し上げる。道路については、浪江IC~南相馬IC、相馬IC~山元ICを今年中に開通。常磐富岡IC~浪江ICを、来年のゴールデンウィークまでに開通させ、常磐道を全通させて復興の加速化をけん引。また、高速道路の無料措置について、1年間延長することを決定。
- 鉄道については、三陸鉄道を4月に予定どおり全線運転再開させるとともに、JR山田線の復旧について合意形成に向けた調整を加速。
- 住宅・まちづくりについては、災害公営住宅の標準建設費の更なる引上げなどを通じて、工程表どおり平成26年度末に4割超の完成を目指す。
- 入札不調については、発注工事の増加に伴い、小規模工事など条件の悪い工事を中心に発生。しかし、2回目以降の発注でロットの大型化など工夫を行うことにより、契約に至っており、積み残しはない。
- 人材・資材の確保については、公共工事設計労務単価を2回にわたる引上げを行ったが、引き続き、きめ細かく賃金支払いの実態調査を実施。また、本年の9月に岩手県宮古地区・釜石地区において、生コンクリートの直轄プラントの設置、毎月の市場調査をもとにした資材単価の適用や適切な契約変更などにより、資材の安定供給を図る。
- 復興推進会議においては、各大臣からの発言を踏まえて、最後に総理から政府全体として施策を総動員し、復興をさらに加速させるようご発言があった。総理の発言を踏まえ、先ほど申し上げた点も含め、国土交通省一致結束して事業の迅速かつ円滑な「執行」を図り、被災地の方々が早く復興を「実感」できるよう全力で取り組んでいただきたい。

総合政策局長、東北地方整備局長、東北運輸局長及び第二管区海上保安本部長が資料に基づいて説明。

土井大臣政務官

- 災害公営住宅について、着手と完了の進捗率に開きがあるがなぜか。
- 三陸自動車道については、今後北にどのような計画で延伸するのか明確にしてほしい。
- 復興調整会議については、JRと国がどう協調して鉄道復旧につなげていくのかという建設的な会議にしてほしい。
- 復興祈念施設について、国で整備してほしいという要望があるがどう考えているか。
- 緑の防潮堤はモデル事業でやっているが、検証はどのような形でやっているのか。

住宅局長

- 高台での造成や土盛りが必要などころが多く、用地を確保してから着工するまでにどうしても時間がかかる。

道路局長

- 用地買収も異例のスピードで行っているが、現時点では明確に示せる状況ではない。早めに明示できるよう心がけたい。

都市局長

- 国営公園をつくれないうという要望は承知している。現在は財政当局を含め話し合いを行い、東北地整で支出委任を受け調査している。

水管理・国土保全局長

- 緑の防潮堤については注意深く見守っていく。検証もしっかりしていきたい。

鉄道局長

- 復興調整会議については、できるだけ合意形成が図られるよう地元のご要望もふまえながら進めて参りたい。

土井大臣政務官

- 災害公営住宅について、用地を確保しただけで着手とするのは誤解を生むのではと懸念している。

高木副大臣

- 先日視察した被災自治体の首長さんからは大変感謝された。復興の本格的な段階にあ

ると実感した。皆さんの努力に敬意を表したい。引き続きがんばってほしい。

野上副大臣

- 私も 1 月に被災地を視察したが、URが非常に大きな役割を果たしていると聞いた。今後もがんばってもらいたい。

坂井大臣政務官

- 先日のメディアのアンケートで帰らない人が 6 割とあった。そうなるのであればこれまでのコンパクトシティの計画が根底から崩れる。対策をしていかなければならない。

事務次官

- 本日の大臣、副大臣、政務官のご指摘を踏まえ、国土交通省一丸となって全力で取り組んでいただきたい。